

会議録

会議名	令和4年度 第2回 目黒区廃棄物減量等推進審議会
日時	令和4年12月2日(金) 午前10時～午前11時20分
会場	目黒区総合庁舎1階E会議室
出席委員 (敬称略)	安井、平尾、鈴木、田島、山宮、松嶋、かいでん、原、森銅、大月、関戸、坂本、市毛、斎藤、日比野、杉本、中井(計17名)
区側職員	橋本環境清掃部長、神清掃リサイクル課長、金元環境保全課長、細野清掃事務所長
傍聴者	2名
配付資料	<p>廃棄物減量等推進審議会委員名簿</p> <p>資料1 2100年を視野に入れた快適で誇りのもてる循環型のまち ～目黒区への提言～ 中間のまとめ</p> <p>資料2 令和3年度目黒区のごみ量と資源回収量について</p> <p>資料3 目黒区環境基本計画改定素案について</p>
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>20名中、出席者は17名であり、半数以上の出席があるため定足数を満たしており、会は成立する。2人の方が傍聴を希望しており、これを許可したい。 (委員の了承を確認)</p> <p>2 議 事</p> <p><審議事項></p> <p>(1) 目黒区一般廃棄物処理基本計画の改定に向けた基本的方向に係る答申(中間のまとめ)について</p> <p>○区 (資料1により説明)</p> <p>○委員 区の収集を利用して排出されている事業系ごみ(事業系一般廃棄物)の割合はどれくらいか把握しているか。また、2100年に向けてどのようにしていくのか。</p> <p>○区 事業系ごみは事業者の責任で一般廃棄物処理事業者に民間委託することが原則だが、日量50kg未満の事業者は、有料ごみ処理券を貼付して区での収集も選択できる。事業系ごみの正確な割合は不明である。ごみ減量に当たっては、民間委託、区の収集にかかわらずきちんとした排出指導をしていくのが重要と考える。</p> <p>○委員 電池の種類によって区の施設で回収できるものとできないものがあり、分かりにくい。インターネットや区報を活用し、もっと積極的に周知することで解決できる点もあると考える。電器店などのリサイクル協力店の情報や家庭での処理方法が書かれたものを各家庭に配布するなど、もっと積極的な方法が必要ではないか。</p> <p>○会長 小型充電式電池の回収協力店は区内に何店舗あるのか。</p> <p>○区 16店舗(正しくは令和4年12月時点で15店舗)ある。周知方法については、効果的な方法を検討する。回収方法については、清掃事務所とも協力して検討する必要がある。</p> <p>○会長 小型充電式電池の回収は、国や都との連携が必要と思われる。</p>

○委員	区の収集ができないと周知されても区民が困る。行政での受入れと、協力店を広めていくことを同時に行う必要があると考える。回収方法についての検討は早く出していくべき。
○区	暫定的な対応だが、回収協力店への持参が難しいという問い合わせがあれば、区内 10 か所にある小型家電回収ボックスの利用をご案内している。今後の対応方法については、検討していきたい。
○会長	基本は製造者責任である。2050 年のゼロカーボンを実現するために将来的にどうするのか、政府に問題提起してもよいと考える。2050 年にはこの課題が解決していると願いたい。
○委員	小型充電式電池の回収協力店について、現状の区のホームページでは高齢者には調べづらい。区で区内の協力店一覧を作成してみてもどうか。
○委員	答申の表題が「2100 年を視野に入れた」となっているが、ごみ問題は喫緊の課題であり、最終処分場は 50 年しかもたない。区民のごみ問題に関する意識が薄いことを懸念している。
○委員	答申の書き方を工夫したほうが良い。2100 年は循環型社会の実現に対応している。2030 年が目標年次の SDGs、2050 年が目標年次のゼロカーボンを 2100 年の前に書いたほうが良い。
○委員	審議会からの提言なので区の実施に関する表現を言い切りではなく、「望ましい」などの表現に変えるべきである。
○会長	表現については、審議会から区へ命令していると考えてはどうか。
○委員	そうであったとしても、読み手が誤解する表現は避けたい。「～することが必要だ」と文末まで書いてほしい。
○委員	粗大ごみ量の高止まりの理由を知りたい。粗大ごみ以外については巣ごもり需要で増えていたと考えられるが、粗大ごみは関係ないのではないか。
○区	可燃ごみ、不燃ごみは元に戻っているが、粗大ごみが高止まりの原因は現状では明確な理由が分からない。
○委員	現行の一般廃棄物処理基本計画で掲げている目標値が未達である主な原因が粗大ごみなのであれば、しっかりと分析し、対処していくことが必要と考える。
○委員	家庭ごみ有料化の検討は賛成である。一方で対となる事業系ごみについて具体的な提言がない。何かポイントになるようなことを提言していくことが重要と考える。
○委員	事業系廃棄物収集業者のパッカー車に同乗したことがある。そこで聞いた話では、生ごみコンポストを実施しているスーパーでは、生ごみが半分近く減ったとのことであった。排出事業者に対するアメとムチが必要ではないか。有料ごみ処理券の貼付率が低いことに対する指導に効果があるのか疑問である。例えばコンポスト助成というアメと、指導に従わない場合のペナルティというムチなど。提言に盛り込むべきと考える。
○委員	基本方針に災害時の廃棄物について書かれているが、提言にも盛り込む

	<p>べき。</p> <p>○委員 区民の多くはごみ問題を他人事として捉えている。本審議会だけでなく、区民を入れた会議体を作ることを提言できないか。</p> <p>○区 目黒区では、他区に先駆けてリサイクル事業を推進するため、区民・事業者・区が連携するリサイクルめぐろ推進協会を立ち上げ、現在、エコライフめぐろ推進協会と名称を変え、区民の各団体やグループと手を携えて活動している。区民団体等も出展するエコまつりの開催を12月11日に予定している。区民との連携については今後も取り組んでいきたいと考える。</p> <p><報告事項></p> <p>(2) 令和3年度目黒区のごみ量と資源回収量について</p> <p>○区 (資料2により説明)</p> <p>(委員からの意見なし)</p> <p><情報提供></p> <p>(3) 目黒区環境基本計画改定素案について</p> <p>○区 (資料3により説明)</p> <p>○委員 素案に記載されているプラスチック削減はプラスチックをリサイクルしていくということか。リサイクルよりもプラスチックの発生抑制を進めていかななくてはならない。発生抑制について行政に動いてほしい。</p> <p>○委員 区民がリサイクルをいくらやっても発生量には追いつかない。区や製造・販売事業者がもっとスピード感を持ってやって欲しい。</p> <p>○委員 区民一人ひとりがどのように活動したら、二酸化炭素排出量がどれだけ減るのが分かると良い。国立環境研究所では、生活の中でどれくらい二酸化炭素の削減ができるか確認できるアプリを開発している。それぞれの活動での削減量が分かれば、区民のやる気につながるのではないかと考える。</p> <p>3 閉 会</p> <p style="text-align: center;">以 上</p>
--	--